

《技術報告》

鉛板を用いないセンチネルリンパ節シンチグラフィの撮像法の検討 使用コリメータと収集エネルギー設定について

對間 博之* 山永 隆史* 下西 祥裕* 越智 宏暢**

要旨〔目的〕センチネルリンパ節シンチグラム撮像において放射性コロイドの投与部位周辺に生じるアーチファクトや散乱線の除去のため、鉛板で遮蔽する方法が一般的である。われわれは鉛板を用いない撮像法を考案し、その有用性についてファントム画像および臨床画像にて検討した。

〔方法、結果〕画像を劣化させる要因にはスターアーチファクトと散乱線の2つがあり、スターアーチファクトについては中エネルギーコリメータを使用することで除去できた。また、投与部位からの散乱線はノイズとなりコントラストを低下させる要因になるが、エネルギーウィンドウを高く設定することで散乱線による影響を軽減できた。

〔結論〕鉛板を用いない本法はダイナミック収集や鉛板の置きにくい部位の撮像にも応用でき、患者の心理面にも配慮した有用な撮像法であると考えられる。

(核医学 39: 161-169, 2002)